

骨卒中みそ汁提供による25-OHビタミンD改善への取り組み

施設名：博愛記念病院¹⁾ 独立行政法人国立病院機構徳島病院²⁾

発表者：折野 亜衣¹⁾ (管理栄養士)

共同演者：阿部 日登美¹⁾ (事務)

梅井 康弘¹⁾ (薬剤師)

高橋 麻衣子¹⁾ (理学療法士)

元木 由美¹⁾ (医師)

高田 信二郎²⁾ (医師)

武久 洋三¹⁾ (医師)

【目的】

ビタミンD摂取量の増加がビタミンD不足・欠乏と判定された入院患者に及ぼす栄養学的効果を解析する。

【対象】

2020年1月から2021年4月の間に、本院回復期リハビリテーション病棟に入院となった経口摂取可能な67名。平均年齢は84.6歳、平均BMIは21.1kg/m²。そのうち、血清25水酸化ビタミンD(25-(OH)-D)濃度が20ng/ml未満のビタミンD欠乏患者は62名、20~29.9 ng/mlの不足患者は5名。

【方法】

対象者を入院時に、乳カル酵素ファイバー®添加群35名と、非添加群32名の2群に無作為に分けた。

添加群は、乳カル酵素ファイバー®2g(ビタミンD10 μ g含有)を1日1回汁物に加えた(骨卒中みそ汁)。1日平均ビタミンD提供量は、添加群では27.5 μ g。非添加群では17.5 μ gとなった。

平均摂取量は、添加群22.6 μ g、非添加群13.3 μ gといずれも骨粗鬆症ガイドラインに示されているビタミンD推奨摂取量10~20 μ gを満たしていた。

【結果】

血清25-(OH)-D濃度は添加群で介入前12.5ng/ml、介入1か月後18.6ng/mlと有意に増加(p<0.001)。非添加群でも介入前13.2ng/ml、介入1か月後16.7ng/mlと有意に増加(p<0.001)。

握力は、添加群で介入前13.2kg、介入1か月後14.9kgと有意に増加(p<0.001)。非添加群では、介入前12.6kg、介入1か月後12.5kgと有意差なし(p=0.4423)。

【考察】

添加群と非添加群共に、介入1か月後で各々の血清25-(OH)-D濃度が介入前に比べて有意に増加した。非添加群であっても、本院の給食でビタミンD推奨摂取量を満たし、血清25-(OH)-D濃度が増加したと考える。

乳カル酵素ファイバー®を汁物に添加すると、握力は有意に増加した。